

令和6年度 第3回蕨市いじめ問題対策連絡協議会 議事録

1 日 時 令和7年2月13日(木) 10:45～12:00

2 会 場 蕨市役所 4階 大会議室

3 出席者(敬称略)

委 員：佐藤 慎也 赤羽 悟 倉石 尚登 加納 克彦
福田 望 原田 卓治 眞下 賢 梅谷 知弘
松本 隆男

事務局：小山 晃弘(教育部次長)
及川 優介(学校教育課指導主事)
遠藤 雄也(学校教育課指導主事)

4 内 容

【開 会】 小山 晃弘

【委嘱状交付】

【自己紹介】

【協議会に関する説明】

【会長挨拶】

いじめ件数が減少傾向にないことが残念である。本会議は関係機関、団体が連携し、いじめ重大事態が発生しないように務める機関であるため、今後も協力をお願いする。

5 【協議】

(1) 蕨市立小・中学校の状況

事務局からの説明

- ・ 令和6年度「第2回生徒指導に関する調査」における蕨市の状況
- ・ いじめの主な態様、いじめに関わる暴力行為、いじめの解消について

《質疑応答》

[委員]

いじめはなくなるという理解でよろしいか。

[事務局]

いじめの芽が小さいうちから、学校が早期に認知をして早期解決に向けて取り組むことが大切である。

[委員]

昨年度から、認知の基準を変更したのか。

[事務局]

本年度、より積極的に認知をするように指導した。留守家庭児童指導室や習い事の案件についても認知するようにした。学童・習い事での該当は23件である。

[委員]

3ヶ月以上いじめが解決されない事案は何か。

[事務局]

同一人物が、別の児童生徒からいじめを受ける事案が長期化している。

[委員]

生徒指導調査について回答しているのは誰か。

[事務局]

学校で認知し回答しているものである。

[委員]

友達感覚での発言が、受け取り側で「いじめられた」と感じることもあるが、受け止め側への配慮や指導はあるか。

[事務局]

ライフスキル教育によって、人間関係づくりを行っている。
人権感覚育成プログラムを使用して、指導している。

[委員]

いじりなど悪気なく接してしまっていることが多いのではないかと。
ひやかしかからかいを抑えることが、全体的な数値を抑えることにつながっていくのではないかと。

[事務局]

おっしゃるとおりである。学校でも粘り強く指導をしていく。

[委員]

保育園での事例を紹介する。幼児に対して「ふわふわ言葉」「チクチク言葉」等について絵などを活用して指導をしており、効果的である。

[委員]

パソコン・スマホのいじめが明るみに出るケースと出ないケースにはどのような違いがあるのか。また、どのようになれば、いじめが解消したと言えるのか。

[事務局]

教員が児童生徒から話を聞いたり、様子を観察したり、学校生活アンケート調査から明るみになることがある。また、いじめの解消については、基本的に教員が把握したものを、丁寧に聞き取り、指導し、あるいは家庭と連携しながら対応している。また、情報モラル等の指導も含めて、いじめだけに特化せずに、教育活動全体で指導をしている。

[委員]

いじめが継続されている子供に対して、指導を行うという話だが、これは、被害者だけか。メンタルケアについても行っているのか。

[事務局]

加害児童生徒、保護者に対しても指導を行っている。

[委員]

例年に比べると、3か月を超えても解消していないいじめの件数は多いのか、少ないのか。

[事務局]

多くなっている。

(2) いじめ防止に向けた取組

○蕨市としての取組 いじめを生まない環境づくり

- ・ライフスキルの手法を用いた蕨市いじめ未然防止プログラム
令和6年度より各学年5時間程度ずつ全面实施

○学校としての取組 主体的な取組の連続性、継続性

- ・「蕨市いじめのない明るい学校づくり会議」(1月 参集方式での実施)
各小中学校における児童生徒の自主的な活動の発表及び協議
主にいじめのない明るい学校づくりに向けた各校の特徴的な取組の紹介

《質疑応答》

[委員]

動画を活用することで、学校での様子がよく伝わった。続けてほしい。

[事務局]

承知した。

(3) 各機関、団体からの報告

[委員]

保護司会としては、毎年7月、地域を担当しているメンバーが集合して情報共有している。昨年度の段階で共有した情報の中には、外国籍の子供が増加していることにより、学力不振からいじめにつながる事案もあるようである。

[委員]

いじめに遭っている子が、自分自身のうちに秘めていることがあると思う。相談・報告したことが、本人や情報が守られるように全体へ指導してほしい。

中学校では LINE グループがある。〇〇出禁などのたちが悪いものもあるようである。学校が介入することは難しいかもしれないが、SNS の世界でいじめが発生していることもある。

本人や情報が守られる、相談しやすい雰囲気づくりに対する指導はあるか。

[事務局]

様々な取組により指導を継続している。

また、記名式の学校生活アンケートなどを活用し、定期的に子供たちから情報を集めている。

[委員]

無記名でアンケートをとるメリットを検討してみてはどうか。

[事務局]

承知した。

[委員]

息子が靴隠しの現場を目撃した。職員室に報告した場合、その状況を見られたら、告げ口をしたと周囲に見られてしまい、いじめに発展するケースも予想される。そういった配慮も必要である。

[委員]

例年、人権標語審査委員を拝命している。あがってくる標語には「いじめはよくない」という言葉がよくあがってくるので、子供たちの中には意識があるはずである。SNS でもいじめは広がっているだろうし、放課後こども教室やわらび学校土曜塾でも対応が難しいケースが増えてきているように感じる。

[委員]

小さな事案でも、このあと、どのように発展していったのかは未知数である。そのため、小さく見える事案であっても、丁寧にかつ継続して観察し、必要に応じて保護者に対して報告すること等を行うことで未然防止に努めている。だからこそ、いじめ認知件数が高まっていくと思うし、それを適切に指導していきたい。学校の職員は、よくやっている。例えば、少しでもアンケートに「嫌なことがあった」という記載があった場合には、面談を行い聞き取っている。また、教職員がいじめに対してのアンテナを高めていく必要がある。

[委員]

こども家庭庁、文科省からの通知では、学校だけでなく首長部局も関わっていくように指導されている。

また、「今回提示された学校外での事案」については、複数の相手に対して暴言暴力を行ってしまうケースであった。発達障害のある児童生徒の場合もあるように、対応が難航する場合については、県のSV（スーパーバイザー）を呼んで指導するなどしている。

[委員]

いじめ、不登校については教育界の永遠の課題である。

蕨市では毎年、新採用教（職）員を採用している。学校全体でみんなで解決してこうという雰囲気づくり、組織的な対応が大切である。教育委員会としても相談体制を再構築し、取り組んでいきたい。

不登校対策についても、学校だけでなく市教委としても、力を入れて取り組んでいる。学校地域連携コミュニティスクールでも扱っていただきたい。

[委員]

人権対策や非暴力に対する取組も、蕨市や学校の取組の中で行っているのか。

[事務局]

日常的に道徳の授業や、今回の資料にはないが、人権作文・人権標語で人権について啓発している。また、いじめ防止の劇の中で、暴力について扱っている学校もある。

6 【その他】

事務局より事務連絡

- ・ 令和7年度第1回蕨市いじめ問題対策連絡協議会
令和7年6月または7月頃実施予定

7 【閉会】 小山 晃弘